

水稻生産情報（7月号）

幼穂形成期～出穂期は適期追肥と適切な水管理に努めましょう！

生育状況（調査日6月30日）

6月は気温が高く、日照量も多かったことで、生育が進み、幼穂形成期は、つがるロマンで7月9日頃となり、出穂期は、8月1日頃と予想されます。

穂ばらみ期は特に低温に弱い時期なので、寒い日は深水（15cm以上）にし、幼穂を保護しましょう。

■水管理

品種	草丈 (cm)		茎数 (本/株)		葉齢 (葉)		幼穂形成期	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
つがるロマン	45.4	43.9	18.0	19.8	8.4	8.7	7月9日	7月13日
まっしぐら	52.1	47.1	18.7	17.9	8.3	8.0	7月7日	7月12日

生育時期	期間	寒い日	温かい日	ポイント
幼穂形成期 ～10日間	7/9～ 10日間	10cmで10日間		低温・干ばつに弱い時期。 花粉の元となる細胞の数が決まる時期。
穂ばらみ期	7/20～	15～20cm	4cm程度 (時々、水の入 替えやかけ流し)	低温に最も弱い時期。 低温は、花粉の退化など不稔の原因になります。 根の老化が始まるため、時々、水の入替えやかけ流しを行い酸素を供給する。
出穂・開花期	8/1～ 10日間	10cm	5cm程度	最も水を必要とする時期。(花水) 低温は、開花・受精に障害をきたします。
登熟期	8/10頃 ～	10cm	2～3cmの浅水	間断かんがいで根に酸素を供給し、生育後期まで根を働かせる。

■胴割粒対策

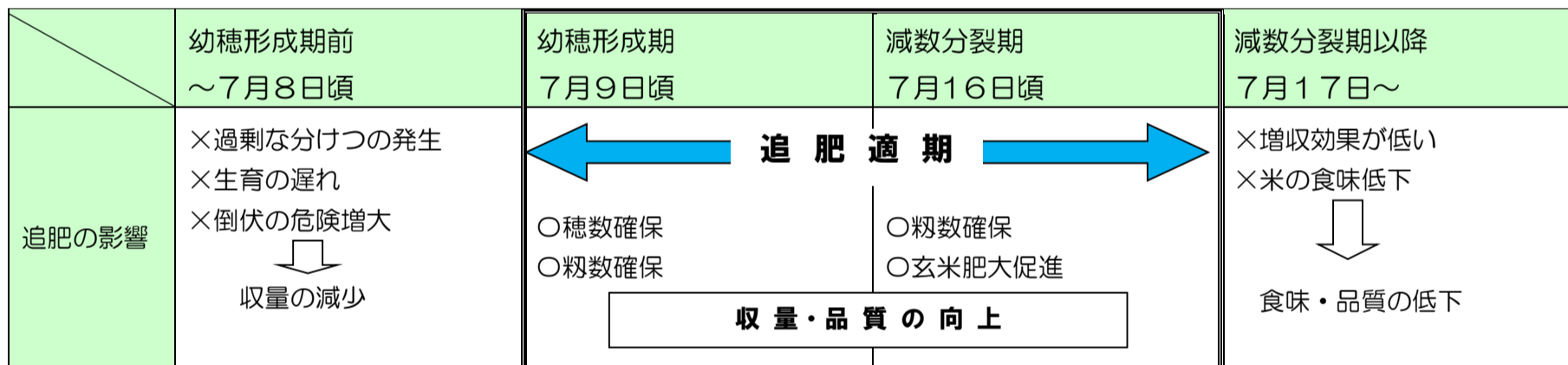
- 出穂後10日間の最高気温が30度を超える場合、胴割粒の発生が多くなる恐れがあります。
- 水の入換え・かけ流しを積極的に行い、『稲体の温度を下げて』胴割米を防ぎましょう。

■追肥

生育量や葉色を見ながら追肥しましょう。目安はN成分で2kg、NK25号又は、ロマン追肥（1袋/10a）です。

葉色が濃い場合は幼穂形成期から10日後にもう一度確認し、葉色が淡くなってから追肥しましょう。

分けつが多い場合や葉色が落ち着かない場合は追肥を中止しましょう。



■いもち病対策

- いもち病は、葉の色が濃い水田で発生しやすいため、幼穂形成期から10日後になっても葉の色が落ちない水田では、追肥を中止しましょう。
- 穂いもち病の防除については、出穂直前の予防散布が重要です。
葉いもち病の発生が見られる水田では、ノンプラス粉剤（4kg/10a）を散布しましょう。
※ノンプラス粉剤は、青天の霹靂には使用できません。



葉いもち病斑

■薬剤散布 ※航空防除実施していない場合

7月20日頃	出穂直前（7月25～28日頃）	穂揃期（8月1～4日頃）	穂揃期7～14日後
稲こうじ病	いもち病	いもち病・カメムシ類	カメムシ類
Zボルドー粉剤 (4kg/10a) ※前年発生が多かった水田は散布して下さい。	ビーム粉剤 DL (4kg/10a)	ビームスタークル粉剤 DL (4kg/10a)	ダントツH粉剤 DL (4kg/10a) またはスタークル粉剤 (3kg/10a)
※例年斑点米カメムシによる被害が見られる水田では、「穂揃期」と「穂揃期7～14日後」の2回防除を行いましょう。			

■カメムシ対策（草刈り）

※出穂後の草刈りは、カメムシを水田に追い込んでしまいます。
定期的な草刈りは出穂2週間前(平年7月20日頃)までこまめに実施して、その後は出穂4週間後(平年9月上旬)までは控えるようにしましょう。



アカヒゲホソミドリカスミカメ